

# 薬学研究科未来プラン2021

## ～教育・研究の実績を社会貢献に活かす～

### ■ 薬学研究科未来プラン2021で目指すこと

教育体制を整え、薬学領域における継続的な学び環境の支援を通して、持続可能な地域づくりの核となる、国際感覚豊かで次世代において活躍できる人材育成に貢献します。また、大学内外および産業界との共同研究や名古屋市との連携を一層発展させ、成長し続ける組織づくりにより、多様性に富んだ社会に柔軟に適応した薬学をリードする大学を目指します。

### ■ 社会情勢の変化・現状と課題

18歳人口が減少の一途を辿る一方で、新規薬学部を設置等により全国の薬学部の定員が大幅に増え、薬学部の志願者が減少傾向にあります。また、大学院博士課程への進学者が減少し、薬剤師免許を有する大学教員が大幅に不足することが危惧されています。これらの問題の解決のためには、大学の魅力を高め、競争力を増すことで有能な人材を獲得し、将来を担う人材の育成と新時代を切り拓く先端性、および国際的・総合的な研究力を発揮することが必要です。また、社会が要求する新しい薬剤師業務をリードし指導していける優秀な人材の育成が急務です。

### ■ 代表的な取り組み

#### 時代の変化に即し、多様な学生および市民のニーズに対応した教育システムの整備

薬学教育モデルコアカリキュラムに即しつつ、変化する医療や科学に対応でき、高いレベルの研究マインドを有する人材を育成するとともに、優秀な高校生に対してアピールできる体制を整備します。

名市大未来プラン2021 1-(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)

#### 薬学臨床・基礎研究の連携・支援強化と市民の健康への還元

薬学研究科主催のクローズドな臨床・基礎連携技術説明会を実施し、企業の参加も可能なイベントに育てていきます。また、薬剤師による臨床・基礎連携研究を実践する場としてリバーストランスレーショナルリサーチセンターを設置し、臨床研究連携をサポートできる体制を構築して、セルフメディケーションや地域医療の高度化を目指します。これらの支援として外部資金申請や知財などの相談体制の充実を進めるとともに、イノベーション相談を実現し、スタートアップ企業への発展について相談・支援をします。これらの成果発信についてSNSを活用した多言語で行います。

名市大未来プラン2021 2-(2)(5)(8)(9)

#### 高度医療人材（薬剤師）の育成

医療系学部連携教育を、高学年の学習でも連携して行うプログラムを実施し、臨床実習を終えた学生、大学院生に附属病院群におけるアドバンス研修を可能にします。これにより、教育力、研究力、人格を兼ね備えた高度な臨床能力を有する薬剤師の育成を目指します。

名市大未来プラン2021 5-(5)

## (1) 時代の変化に即し、多様な学生および市民のニーズに対応した教育システムの整備

薬学教育モデルコアカリキュラムに即しつつ、変化する医療や科学に対応でき、高いレベルの研究マインドを有する人材を育成するとともに、優秀な高校生に対してアピールできる体制を整備します。

名市大未来プラン2021 1-(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)

### 【実行項目】

- ①多様な専門性や経歴を有する教員・実務家教員・特任教員の採用（2022年度～）
- ②大学院生の経済的支援制度のさらなる拡充（2022年度～）
- ③教員本来の-effortを確保するための人員確保および書類等の見直し（2022年度～）
- ④高大接続枠入試の検証と検証結果に基づいた拡大（2022年度～）
- ⑤医薬学総合研究院内における学生配属の見直しによる教育内容の充実（2022年度～）

## (2) 名市大の強みと特徴を生かした教育プログラム

18歳人口の減少と医療職資格保持者の増大により、資格以外にも特徴や魅力を発信していくことが求められているため、名市大の一つの強み・特徴である神経科学をさらに学部横断型教育に発展させていきます。

名市大未来プラン2021 1-(1)(3)(4)(6)

### 【実行項目】

- ①学部横断型の神経科学教育プログラムの作成（2023年度～）
- ②オンライン・オンデマンド・バーチャル教育実施のためのシステムと人員整備（2022年度～）

# 研究・産学官イノベーション

## (1) 研究科内外の異分野融合研究促進イベントの開催

多様な分野の研究が実施されている薬学研究科で、研究分野間の連携・融合を推進するため、研究科内向け研究紹介データベースを構築します。これをもとに研究科内においても共同研究を推進し、その成果を全学の研究シーズ集へリンクさせ、技術説明会を開催することにより、さらなる異分野融合研究を促進します。

名市大未来プラン2021 2-(1)

### 【実行項目】

- ①研究科内向け研究紹介データベースの構築（2022年度～）
- ②研究紹介データベースと全学の研究シーズ集とのリンク（2022年度～）
- ③薬学研究科による技術説明会の開催と異分野融合研究の促進（2023年度～）
- ④医薬学総合研究院内の連携促進による研究の推進（2022年度～）
- ⑤理学研究科等との融合研究の促進（2022年度～）

## (2) 薬学臨床・基礎研究の連携・支援強化と市民の健康への還元

薬学研究科主催のクローズドな臨床・基礎連携技術説明会を実施し、企業の参加も可能なイベントに育てていきます。また、薬剤師による臨床・基礎連携研究を実践する場としてリバーストランスレーショナルリサーチセンターを設置し、臨床研究連携をサポートできる体制を構築して、セルフメディケーションや地域医療の高度化を目指します。これらの支援として外部資金申請や知財などの相談体制の充実を進めるとともに、イノベーション相談を実現し、スタートアップ企業への発展について相談・支援をします。これらの成果発信についてSNSを活用した多言語で行います。

名市大未来プラン2021 2-(2)(5)(8)(9)

### 【実行項目】

- ①臨床グループと薬学研究科の基礎・臨床研究者による、クローズドな研究会と共同研究打ち合わせを行うイベントの実施（2023年度～）
- ②共同研究の成果のクローズドな共有と企業の参加も可能なイベントの企画（2025年度～）
- ③薬剤師による臨床・基礎連携研究を実践する場としてリバーストランスレーショナルリサーチセンターの設置（2023年度～）
- ④薬剤師や大学病院・地域医療施設スタッフらとの臨床研究連携をサポートできる体制の構築（2023年度～）
- ⑤セルフメディケーションや地域医療の高度化を目指した、薬剤師と大学病院・地域医療施設のスタッフによる臨床研究連携の実施（2024年度～）

## (3) 企業研究者等との緊密な連携による共同研究促進

企業の研究者・臨床開発担当者との連携関係を構築し、研究科内研究者と企業との共同研究を活性化します。

名市大未来プラン2021 2-(4)

### 【実行項目】

- ①企業の研究者・臨床開発担当者を客員教員として招聘し、薬学アドバイザリーボードを設立（2022年度～）
- ②薬学アドバイザリーボードの議論を踏まえた研究科内研究者と企業との共同研究の活性化（2023年度～）

## (4) 循環的支援によるポスドク活躍体制の推進

フェローシップ制度等を積極的に活用し、またメンターや申請支援の仕組みを構築してポスドク活躍の循環的支援を実施します。実験技術講座を開設し、若手研究者が多くのスキルを習得できる環境を構築します。

名市大未来プラン2021 2-(6)

### 【実行項目】

- ①大学フェローシップ制度等の活用によるPD、SPD等申請者の増加（2025年度～）
- ②PD、SPD等採択者によるメンター・申請支援の仕組み構築と循環的支援の実施（2026年度～）
- ③実験技術講座の開設による若手研究者が多くのスキルを習得できる環境の構築（2022年度～）

## (1) SDGsの目標達成に向けた薬学的な取り組みの推進と社会発信

SDGs未来都市に選定された名古屋市と協調し、また他学部とも連携強化して、SDGsの目標達成に向けた薬学的な取り組みを社会発信します。

名市大未来プラン2021 3-(1)

### 【実行項目】

- ①SDGsの目標達成に向けた薬学的な取り組み（教育、研究、人材育成など）の推進による成果の社会発信および社会還元（2023年度～）
- ②SDGsセンターや社会連携センターを通じた名古屋市や各学部との連携強化と、薬学的な社会課題の解決における貢献（2023年度～）

## (2) 創薬基盤科学研究所を中核とした薬学拠点機能の構築

創薬基盤科学研究所を中心に、名古屋市の政策を薬学的立場から支援でき、名古屋市が抱える課題点を薬学的観点から解決できる薬学拠点機能を構築します。

名市大未来プラン2021 3-(4)

### 【実行項目】

- ①創薬基盤科学研究所を中核とした薬学領域の研究拠点の構築（官公庁・企業・大学機関などとの共同研究や受託研究など）（2022年度～）
- ②名古屋市と連携強化した薬学領域における共同プロジェクトの実施（2025年度～）

# 国際化

## (1) 大学院の国際化推進

大学院生の国際交流・協働への参加を促進します。国際交流協定校との間の教育および研究の協働を拡大・深化します。大学院留学生の受入れ体制を整備し、受入れを推進することで研究科学生の国際感覚を育てます。

名市大未来プラン2021 4-(1)(3)

### 【実行項目】

- ①拠点校を中心とした協定校との間での研究交流、交換留学、オンラインプログラムの拡充（2022年度～）
- ②大学院生の中短期研究留学（1-3か月）制度導入（2023年度～）
- ③拠点校を中心とした協定校からの大学院留学生の獲得（2022年度～）

## (2) 学部教育の国際化推進

学部生の国際交流・協働への参加も促進します。国際交流協定校との間の教育および研究の協働を拡大・深化します。学部生の中短期留学の受入れ体制を整備し、学生の国際感覚を育てます。

名市大未来プラン2021 4-(1)

### 【実行項目】

- ①学部の中短期研修先の拡充（2022年度～）

### (3) 海外拠点校を中心とした協定校の整備

海外拠点校を中心とした協定校に設置されたコンタクトポイントへ、名古屋市立大学の教職員を派遣し、協働作業を推進します。

名市大未来プラン2021 4-(3)

#### 【実行項目】

- ① 拠点校を中心とした協定校への教職員派遣制度の導入（2025年度～）
- ② 拠点校を中心とした協定校からの教職員受け入れ制度の導入（2023年度～）

### (4) 学部専門英語教育の充実

英語ネイティブスピーカーによる学部専門英語科目の実施により英語教育の充実を図ります。これにより、学部学生の国際交流の充実・活発化の土台となる英語力の向上に役立てます。

名市大未来プラン2021 4-(1)

#### 【実行項目】

- ① 英語ネイティブスピーカーによる学部専門英語科目の実施（2025年度～）

## 医療

### (1) 高度医療人材（薬剤師）の育成

医療系学部連携教育を、高学年の学習でも連携して行うプログラムを実施し、臨床実習を終えた学生、大学院生に附属病院群におけるアドバンス研修を可能にします。これにより、教育力、研究力、人格を兼ね備えた高度な臨床能力を有する薬剤師の育成を目指します。

名市大未来プラン2021 5-(5)

#### 【実行項目】

- ① 6年間の継続的な医療系学部連携教育プログラムの実施（2023年度～）
- ② 附属病院群における薬学部アドバンス臨床研修プログラムの実施（2024年度～）
- ③ 薬学研究科大学院生の大学病院臨床研修プログラムの実施（2024年度～）

### (2) 最先端医療に貢献する薬学研究の推進

若手薬学研究科の教員と附属病院群スタッフとの積極的な交流を進め、臨床教育や医療関連研究の協力を容易にし、薬学研究科の医療教育・研究レベルアップを目指します。

名市大未来プラン2021 5-(5)

#### 【実行項目】

- ① 薬学研究科教員と附属病院群専門職の交流促進による臨床教育・医療関連研究推進プログラムの実施（2023年度～）
- ② 薬学研究科・附属病院群共同研究推進のための病院内研究施設の設置（2023年度～）
- ③ 薬学研究科（特に社会人）大学院生の臨床研究指導体制の充実（2023年度～）
- ④ 高度な臨床と研究能力を併せ持つ臨床系（実務家）教員と薬剤師の育成（2023年度～）

## (1) 多様な外部研究資金獲得の取り組み

教育・研究の質のさらなる向上のため、外部有識者によるアドバイザリー委員会を設置し、外部資金の獲得などの多様な財源の確保を目指します。

名市大未来プラン2021 6-(2)

### 【実行項目】

- ①外部研究資金の獲得にむけたアドバイザリー委員会の設置（2022年度～）
- ②共同研究等による外部資金の獲得（2022年度～）

## (2) 既存の研究施設等の整備と有効活用による長寿命化

既存の研究施設等の整備と貸与促進等による有効活用により、長寿命化と新たな自己収入の確保を図ります。

名市大未来プラン2021 6-(2)(5)

### 【実行項目】

- ①共同利用研究施設の整備（2022年度～）
- ②共同利用研究施設内の研究室の外部機関への貸出による有効活用（2022年度～）

# 組織マネジメント

## (1) 戦略的な人材確保の推進

教員の研究能力を高めるために、教員業績評価を研究費配分等に反映させます。実務家教員による教育、研究ニーズの把握、トランスレーショナル・リサーチの推進による研究開発の社会実装を進め、社会の変化に柔軟に適応できる組織づくりに向けて、積極的に企業ノウハウを取り入れていきます。

名市大未来プラン2021 7-(2)

### 【実行項目】

- ①民間企業などの多様な専門性や経歴をもつ実務家教員の採用推進（2022年度～）
- ②教員業績評価を反映した予算配分体系の整備（2025年度～）

## (2) ダイバーシティの推進

すべての人が活躍するために、子育て世代や介護世代などそれぞれのライフステージに沿った働き方が可能な職場環境づくりを推進します。働き方改革により職場の魅力を高め、優れた教職員を確保します。

名市大未来プラン2021 7-(3)

### 【実行項目】

- ①女性教員や外国人研究者の積極的な採用（2022年度～）
- ②ライフイベントとの両立を可能とするために、委員会や書類を見直すなど業務を効率化（2022年度～）

## (1) 職場環境の改善と効率化

研究者人口を増やすことで、柔軟な人事配置や機器の運用を行い、現職の研究者（教員やポスドク、研究員）やミライの研究者にとって、より研究に専念できる環境を作り出します。これにより薬学部の発展、さらには、大学全体の発展につなげます。

名市大未来プラン2021 8-(1)(2)

### 【実行項目】

- ①研究者人員の増加と柔軟な人員配置（2022年度～）

## (2) 同窓会と共同した事業の検討

薬学部の同窓会（薬友会）と連携し、附属薬局等の新たな事業に取り組むことを目指します。新事業は将来、薬学部としてのアピールポイントとなり、また良質な医療教育にもつながり優れた医療人養成や近隣住民への社会貢献にもなることが期待されます。

名市大未来プラン2021 8-(4)(5)

### 【実行項目】

- ①名市大附属薬局の開設に向けた同窓会との検討（2022年度～）

## (3) 名古屋市と連携した医薬看ネットワークでの社会貢献

薬学部も医療人を育成する学部であり、医療としての社会貢献が可能です。今後生じる可能性のある災害時なども見据えて、今後の未知の災害時にも対応できるように、附属病院群、医学部、看護学部ならびに名古屋市と連携を強化していきます。

名市大未来プラン2021 8-(6)

### 【実行項目】

- ①附属病院群、医学部、看護学部との災害時における連携関係の構築に向けた協議（2022年度～）
- ②災害時の薬剤師派遣（2022年度～）